

## 西ミシガン大学における歩行訓練指導員の養成

芝 田 裕 一

米国ミシガン州カラマズーにある州立西ミシガン大学には、大学院の教育学部に1961年から盲人リハビリテーション学科が設置され、その中に、リハビリテーション・ティーチャー（コミュニケーション等、日常生活訓練指導員）の養成課程と共に、歩行訓練指導員の養成課程が設けられている。この歩行訓練指導員の養成課程は、12か月のプログラムとして組まれており、毎年24名の新しい指導員が誕生している。学生には、学費および月200ドルの奨学金が支給されている。教授陣は歩行関係6名、リハビリテーション・ティーチャー関係2名、学科長1名の計9名で構成されている。教科は、最後にキャンパスをはなれ、リハビリテーションセンターなどで行われるインターン（実習）を含め、全部で18科目となっている。授業はすべて4か月単位で行われている。

つきにあげるのは各教科の名称および内容である。

### 1. 歩行の原理 (Principles of Orientation and Mobility)

1回1時間 週4日

視覚障害者の残存感覚にかんする基礎的な原理についてであり、運動筋肉感覚、聴覚、概念形成、レーザーケーンおよび超音波メガネ等の歩行器具の4部にわかれている。そのひとつひとつについて解剖されるが、視覚障害者独特の感覚について基礎的な成り立ちだけでなく、応用面にまで実際に掘り下げられる。

### 2. 目かくしをしての歩行訓練 (Introduction to Methods of Independent Mobility for the Blind)

1回1時間 週5回

目かくしをして歩行訓練をおこない、実際に必要な白杖の技術を学ぶ。その際には、視覚以外の残存諸感覚を効果的に使用するよう、また環境からの種々の情報を的確に利用するよう教授される。この授業は、教授1人に学生1人のマンツーマンで行われる。

### 3. 歩行訓練実習 (Practicum in Orientation and Mobility)

#### 1回1時間 週4日

はじめて、学生に盲訓練生を教える機会が与えられる。盲訓練生には、児童から高齢者までの広範囲から選ばれ、学生にはいろいろなタイプの訓練生がわりあてられる。学生が慣れるまで、教授が1人ついて監督、助言がなされる。この授業は目かくししての歩行訓練の修了の後、受けることができる。

#### 4. 老人学(Gerontology)

##### 1回3時間 週3回

老人の性格特徴、生活状況、ニードについて、および彼らに必要な施設、サービス、訓練についての概観。この授業では、その他、老化の生理学、老人病、老人の社会的・経済的状況、老齢化による心理的变化など、老人のもつ問題について、全般にわたって考察がおこなわれる。

#### 5. 全盲および弱視者の教育(Education of the Blind and Partially Sighted)

##### 1回1時間 週2回

視覚障害者および障害児教育についての概観。アメリカの盲教育としてとり入れられている。資料室、巡回教師制度、寄宿制学校など、その歴史、文献、問題点などについて考察する。

#### 6. 眼科学(Physiology Function of the Eye)

##### 1回3時間 週1回

眼の解剖、構造、機能および種々の眼病について考察する。この授業では、眼科医が講師として招かれ、最初の2時間を担当し、主に疾病についての講義をおこなう。後の1時間を学科の教授が担当し、各々の眼疾患と歩行、日常生活訓練との関連について講義する。また、病院の眼科、医療機器の見学も含まれている。

#### 7. 弱視全般について(Introduction to Cecutiency)

##### 1回1時間 週2回

弱視者の残存視力の評価方法、そのより有効的な使用法、および限界についての考察。検眼、さまざまな弱視用メガネ、レンズ、また視野が欠損する眼疾患、光によわい眼病、色盲など、疾病についても考察が加えられる。この授業は開講されてまだ3年しかたっていないので、まだまだこれ

から開発され、研究されねばならない分野である。これを受講するには、まえもって眼科学の単位を取得しておく必要がある。

8. 盲人リハビリテーションについて (The Dynamics of Blindness and Rehabilitation)

1回2時間 週2回

盲人の社会に盲人が1個人として更生してゆく過程、その問題点を考察する。この授業では、前半2か月を講義によりおこなわれ、盲人施設、盲への適応、社会の盲人に対する態度など、盲人リハビリテーション全般について概観し、後半2か月は、学生1人1人の発表形式によってすすめられる。

9. 社会資源としての施設等について (Community Agency Resources)

1回3時間 週1回

この授業は、ソーシャルワークの学科においておこなわれ、家族や個人の問題をとり扱い社会における施設、団体、組織、法律など、たとえば、各リハビリテーション施設、家庭裁判所、社会保障についての考察がなされる。スピーチセラピスト、カウンセラー、種々施設の指導員、各学校の教師には必修の講義である。

10. 教育学にかんする研究について (Introduction to Research in Education)

1回3時間 週1回

このコースも学科外の師範教育学科において、受講され、教育にかんすること、また、その種々の問題点についての研究のすすめかたの導入が行われる。テーマの決めかた、図書館の利用のみかた、参考文献の使用のしかた、実験のしかた、データ分析、統計の扱いかた、論文の書きかたについて、実際に学生、ひとりひとりがテーマを決め、研究をすすめながら考察がなされる。

11. 個人的研究 (Independent Research)

4か月

12か月間の最後の4か月を利用して、各学生が歩行にかんするテーマを決め、各々自由に研究をすすめてゆく。この研究には、学科の教授陣あるいはインターンを受けている施設の指導員によ

って監督、助言がなされる。

## 12. 盲人カウンセリング(Counseling of the Blind)

4か月

盲人個々のカウンセリングについて、インターンを受けている施設で、学生各人が研究をおこない、レポート形式で提出する。

## 13. インターン(Internship in Orientation and Mobility)

4か月

最後の4か月間、すべての学生はキャンパスを離れ、盲学校、盲人リハビリテーションセンター施設で、実際に歩行訓練の指導員として、実習をおこなう。各施設では、学生1人に、1人の指導員が監督者としてつき、徹底して指導がおこなわれる。

以上のように、12か月間で18科目をマスターするわけだが、西ミシガン大学の制度では4か月を1学期とし、1年3学期(5～8月、9～12月、1～4月)になっているため、各学期に受講しなければならない科目が、あらかじめ決められている。以下はその一例である。

第1学期 眼科学、歩行の原理、目かくしをしての歩行訓練、盲人リハビリテーション、教育学に  
かんする研究について

第2学期 弱視について、全盲および弱視の教育、歩行訓練実習、老人学、社会資源としての施設  
等について

第3学期 盲人カウンセリング、インターン、個人的研究

おわりに

私は、西ミシガン大学盲人リハビリテーション学科に、社会福祉法人日本ライトハウスより派遣され、1974年5月から1975年8月まで留学いたしました。この9月に帰国し、日本ライトハウス職業・生活訓練センターに歩行訓練指導員とし勤務していますが、来春をめぐり、「歩行訓練カリキュラム(2)」として、歩行訓練プログラムについて執筆する予定であります。

(日本ライトハウス歩行訓練指導員)